

[演題名、筆頭演者氏名、共著者氏名、所属機関名]

小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護に適した圏域像と利用者像
～医師会が当事者と協働し、行政に提案する基礎資料を検討する～

星野大和 宇田川京子 三浦祐子 松澤亮 住谷智恵子 鈴木里沙 沼沢祥行 川越正平

松戸市在宅医療・介護連携支援センター

【目的】

小規模多機能型(小多機)・看護小規模多機能型居宅介護(看多機)利用における課題を明らかにし、その訪問・利用状況分析から解決策を検討した。

【方法】

利用者を紹介する側の介護支援専門員、医療ソーシャルワーカー、紹介される側の小多機・看多機の職能団体にヒアリングし抽出した課題に対し、小多機事業所(6/全 11 か所)、看多機事業所(4/全 8 か所)に定員内なら利用依頼を断らない地域、相談可能な地域を示してもらい小多機、看多機ごとに地図を重ねて示した。また 2020 年 11 月時点の利用者 249 名について利用機能別に分析した。

【結果】

次の課題が抽出された。

①圏域外の事業所の方が近い場合や、複数の事業所を検討したいという利用者ニーズがあり、圏域外利用を認めてほしい

②適した利用者像がわからない

①について、複数の事業所が訪問する地域やどの事業所もカバーしない地域があった。

②について小多機では、1 人平均 1.8 機能利用し、1 機能利用者は平均要介護度 1.7、独居率 11%、認知症有病率 48%、主治医が在宅療養支援診療所である率(在支診率)7%であった。3 機能利用者は平均要介護度 2.9、独居率 36%、認知症有病率 67%、在支診率 18%であった。

看多機では、1 人平均 2.8 機能利用し、1 機能利用者は平均要介護度 2.8、在支診率 20%でがん末期、4 機能利用者は平均要介護度 3.5、在支診率 30%で頭蓋内疾患が多かった。

【考察】

圏域については小多機・看多機連絡会と協議し、利用可能な事業所がない地域をなくし、複数の事業所から選択できるよう調整し、行政に提案する方針を定めた。

利用者分析の結果、1 機能利用でも将来に多機能利用が望ましい者や早期から事業所と馴染みの関係を構築すべき者、病態や家族事情で臨機応変に 3 機能利用している者などの好事例と言える利用者像を明らかにできた。看多機においては医療的ケアのニーズが高い者である。適した者が紹介され、事業所が本来の機能を果たすことによって、地域の在宅限界点を高めることに役立てたい。(COI:なし)